

# CAMK スクリーニング Vol.3

## 永田 康祐

韓国語で酒を意味する「술」は

Sool (술), the Korean word for "alcohol," is said to be

《Fire in Water》2025 より

- 会期 : 2025年8月1日(金)～10月19日(日)  
会場 : 熊本市現代美術館 井手宣通記念ギャラリー [入場無料]  
時間 : 10:00-20:00  
休館日 : 火曜日 \*9月23日(火・祝)は開館し、翌9月24日(水)は休館  
主催 : 熊本市現代美術館 [熊本市、公益財団法人 熊本市美術文化振興財団]

### 企画概要

長編あるいは特定作家の映像作品を紹介するシリーズ「CAMK スクリーニング」。

第3回は、食文化におけるナショナル・アイデンティティの形成、食事作法における身体技法や権力関係、食料生産における動植物の生の管理といった問題についてビデオエッセイやコース料理形式のパフォーマンスを発表している永田康祐の映像作品《Fire in Water》を上映する。

《Fire in Water》は、朝鮮半島の稲作と酒造における日本統治の影響——朝鮮総督府による朝鮮半島の産業への介入——をリサーチし、また、現代の韓国内の農場や醸造所でのフィールドリサーチをもとにして、分離培養された菌や、育種による選抜をうけた種苗が、朝鮮半島の農業や醸造業の支配に大きな影響を与えた事実を描き出す。日本統治の痕跡は、現代においても、米や酒に含有される菌や遺伝情報といった非人間的で不可視の存在に刻み込まれている。谷崎潤一郎が「陰翳礼讃」で描き出した、東洋と西洋、周縁と中心、倒錯と規範との対比と重ねながら、今もなお韓国の酒造や稲作のなかで、「水の中の火」のように、泡立っている目に見えない存在に耳を傾ける。

メインギャラリーで開催中の展覧会「和食～日本の自然、人々の知恵～」では、永田康祐《Translation Zone》を紹介している。《Translation Zone》では、言語と食文化を翻訳という視点で考察した映像作品で、日常的に行われる言語や料理の「翻訳」の現場で起こる厳密でない翻訳の結果、互いが混じり合うことで、ある種の文化の豊かさが生み出されていくことが示される。展覧会「和食～日本の自然、人々の知恵～」と合わせてご覧いただきたい。

上映時間

各日：10:15～、11:00～、12:00～、13:00～、14:00～、15:00～、16:00～、17:00～、18:00～、19:00～  
41分15秒、日本語／英語字幕、恵比寿映像祭コミッション・プロジェクト委嘱作品

プロフィール

永田康祐（ながた・こうすけ）

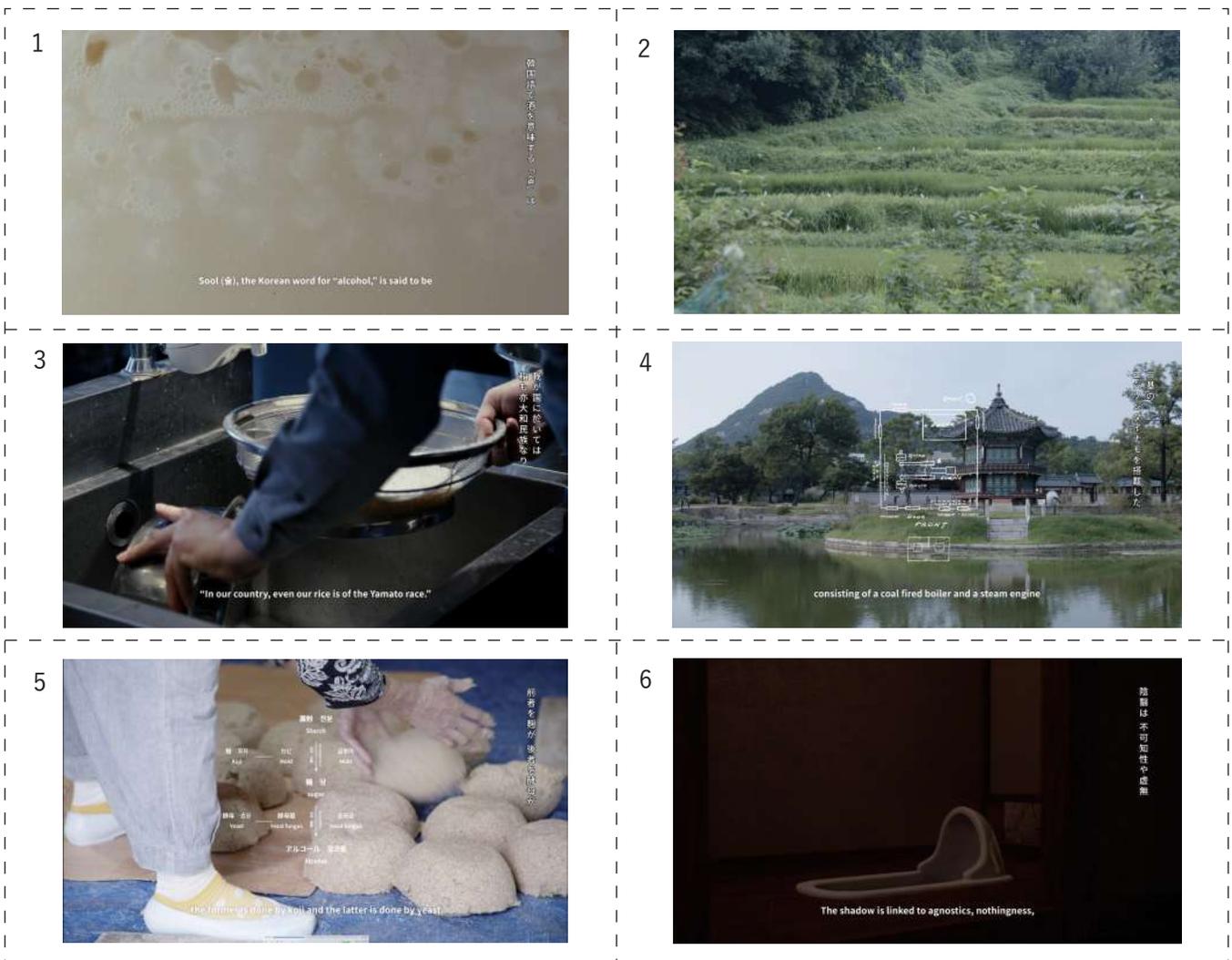
1990年愛知県生まれ、神奈川県を拠点に活動。自己と他者、自然と文化、身体と環境といった近代的な思考を支える二項対立、またそこに潜む曖昧さに関心をもち、写真や映像、インスタレーションなどを制作している。近年は、食文化におけるナショナル・アイデンティティの形成や、食事作法における身体技法や権力関係、食料生産における動植物の生の管理といった問題についてビデオエッセイやコース料理形式のパフォーマンスを発表している。主な個展に「イート」(gallery α M、東京、2020)、グループ展に「見るは触れる 日本の新進作家 vol.19」(東京都写真美術館、2022)、あいちトリエンナーレ(愛知県美術館、2019)など。

広報用画像

広報用画像をご希望の方は下記内容をメールでお知らせください。広報担当からご連絡いたします。

① 掲載媒体 / ② 希望画像 No. / ③ ご担当者様のお名前、ご連絡先(メールアドレス等)

[お申込み] E-mail: gamadas@camk.or.jp



画像キャプション 1～6

永田康祐 《Fire in Water》 2025 より

お問い合わせ

熊本市現代美術館 TEL：096-278-7500 FAX：096-359-7892 Email：gamadas@camk.or.jp